■■■

□原色版『日ざかり』は七月下旬榛名神社附近の寫生にして、原畫の大さはワットマン四ッ切。この繪は暑いといふ感じを主として畫いたもので、それを現はすために色彩の如きは原色に近きものを嫌はず用ひたり。『花のスタデー』は忠實に寫生を試みしだけにして、原畫は十六切位ひの小品なり。『夏の夕暮』は、東京千駄ケ谷附近の圖にして、原畫は四ッ切大。製版の後ち樹木の色は透明の感じになりしが、原畫は不透明の綠なりし、此繪は製版が可なり巧みに仕上りたり。

□次號挿繪の確定せしものは、赤城泰舒氏の『書見』これは去年の文部省展覽會に出品せしもの。石川欽一郎氏の『丸の內』これは例の簡潔なる筆にて、日比谷公園附近の夕暮を寫生せしもの、他の二葉は未定なれど、三宅氏相田氏大下氏の作のうちを出す筈なり。

□次號の記事は、石川氏の『風景畫法』。矢代氏の『偉大なる繪とは何』。大下氏の『靜物寫生の話、色彩の部』。丸山氏の『渡歐紀行』其他三脚物語、日記抄、寫生地案內等例の如し。

□九月號發行は、都合により一週間程遲延するやも知れず、豫じめ御承知を乞ふ。

□本誌は挿繪其他の都合上、增刷減刷共自由ならず、從つて讀者が增しても刷高を增すことが出來ないので、時に月末に到らぬうち品切となる事あり、それ故御注文は可相成前金に願ひ度、また前金切の時は、次の分を直ちに御拂込ありたし、中には前に別にハガキを以て通知を發しても其儘にして置て、後に至つて品切を殘念がらるゝ方あり、何卒そのやうな事なき樣御注意を願ふ。

□發行日より遲れる時には、必ず前以て斷り置く筈なり、夫故、斷りなしに、發行日より相應の日取を過ぎても雜誌來着の時は、途中紛失なれは、可相成品切にならぬうちに御通知に預りたし、發送は帳簿と二度も引合せて送るのに、毎月少なからぬ未着の報に接し、途中紛失の多きには實に閉口してゐるのなり。

□松江市の講習會々場は、師範學校附屬小學校と確定、申込期は過たが、志望者は問合せて見たまへ。敦賀は申込期は八月十日にして、福井縣師範學校內野村厚生氏が事務を取扱ひ居れり。

□大下氏著『水彩寫生旅行』は、既に出版せられたり、內容は原色版二十九寫眞版十餘枚にして定價貳圓五十錢、特價二圓の由、本誌に關係ある向へは、それよりも安く實費にて頒つ筈になり居れり。

□又『寫生畫の研究』は、近々下谷櫻木町晩成處より出版せられるべく、定價未詳なり、これも幾分の割引をなさしむる筈なり。

問に答ふ

■一　非常に細かい花を畫くにバックにムラが出來ない方法　二　『みづゑ』七十七『白百合』程の省筆にて、初學者も大膽に畫いて差支なきや（ABC）◎花を畫

くに紙の地を殘すとか、又は畫いた花の色を殘して、背景を畫くのは初學者には困難であるが、熟練すればさ程に苦しまなくとも趣を取ることが出來る、アトでホワイトを用ひる場合、又は一面に塗つて花だけ小刀で削り取る場合、毛の剛い筆で洗取る場合もあつて、其時の感じに從ひ一番都合のよい手段をとつたらよかろう。二　あのやうな大タイのスケッチも稽古に必要、また本號にある小林氏の『草花』のやうな細かいスタデーも必要細かいスタデーの出來る人でないと、粗いスケッチはうまく感じが出ず、粗いスケッチの出來る人でないと、細かいスタテーいを畫いても局部にのみ偏して大タイを忘れる、繪は粗い描寫で成つてものでも細かい意味がなくてはいけぬ、細かく畫いた繪でも大タイの感が摑むでなくてはいけぬ、■寫生中蚊や虻ブト其他虫類の攻撃を防ぐ方なきや（SM生）◎吾等も常に苦しむ處にて、手だけは手袋を用ひ、脚は靴下で大ていは避る事が出來る、虻の攻撃は困る、ブトの目の前をグル〳〵廻るのは一番閉口、蚊やり香の類又は線香など側に置くもよからん、焚火をすれば一も二もなく虫は去るが、暑い時でもあり自分も困る、讀者諸君のうちに防禦の實驗ある人は御知らせを乞ふ■瀬戸内海號の圖にある白帆は紙の地にやホワイトにや（綠水）◎多くは畫きて後に其部分を水にてぬらし小刀にて削り取つたり。

讀者の領分

■ワットマン十六切位ひの水彩寫生畫交換希望、但畫題を附せられたく、寫生の日や場處等御記入あらば益ゞ可、時として返葉の遲るゝ事もあらんも只貰ふやうな事はいたさず（鹿兒島縣谷山村中、川幡正光）■我等の指導者たる『みづゑ』の益々發展することは、原色版を以ても知ることが出來る、來月號から四枚になるさうだ、實に喜ばしい。丸山氏の渡歐所見も中々面白い繼續されむ事を（千葉の青眼の人）■『みづゑ』が賣れるから繪を殖やすとの豫告は實に嬉しい、此上共賣れて〳〵終に毎號十枚位も繪の入るやうに大に盡力しやしぢやないか（浪華浪客）

紹介

◎草畫舞臺姿　山本鼎、阪本繁次郎筆
東京市外田端五一二　東京版畫倶樂部
四枚一組定價三十錢
帝國劇場六月狂言を畫きしもの、版畫美術の粹を發輝して遺憾なし。板目紙に紺土佐の緣とりたるタトウ紙、見るからに心地よく、宗十郎宗之助高麗藏等の躍如たる舞臺姿の、簡潔なる筆淸楚なる着色共に愛すべく、近來稀に見る好出版物といふべし。

◎日本美術年鑑　第一卷
本郷區湯島切通坂上　畫報社
四六版クロース綴八百餘頁、定價一圓八十錢
美術家及美術愛好者にとりては便利此上なし。內容は連月の廣告にあれば玆に言はず。いづれ毎年出版せらるゝ事なんが、假綴を製しても少し價を廉にせられたなら更に多くの需要を增すことならん。